

小中一貫教育、CS・地学協働のさらなる充実へ

小中一貫・CS 通信

NO.63 R6.6.28 幕別町教育委員会 学校教育推進員

町内全学校で運動会・体育祭が無事終了しました。コロナ禍を経て新しい形で実施する学校が多くなり、その理解と定着も進んできました。大きな行事を無事終え、ホッと一息つくところですが、これからの1か月、各学校では、1学期の教育活動を振り返り2学期の見通しをもつ時期となります。大人も子どもも早めに取り組を進めて、余裕をもって夏休みを迎えたいものです。今回は、地域学校協働活動の特集です。

地域学校協働活動って何？

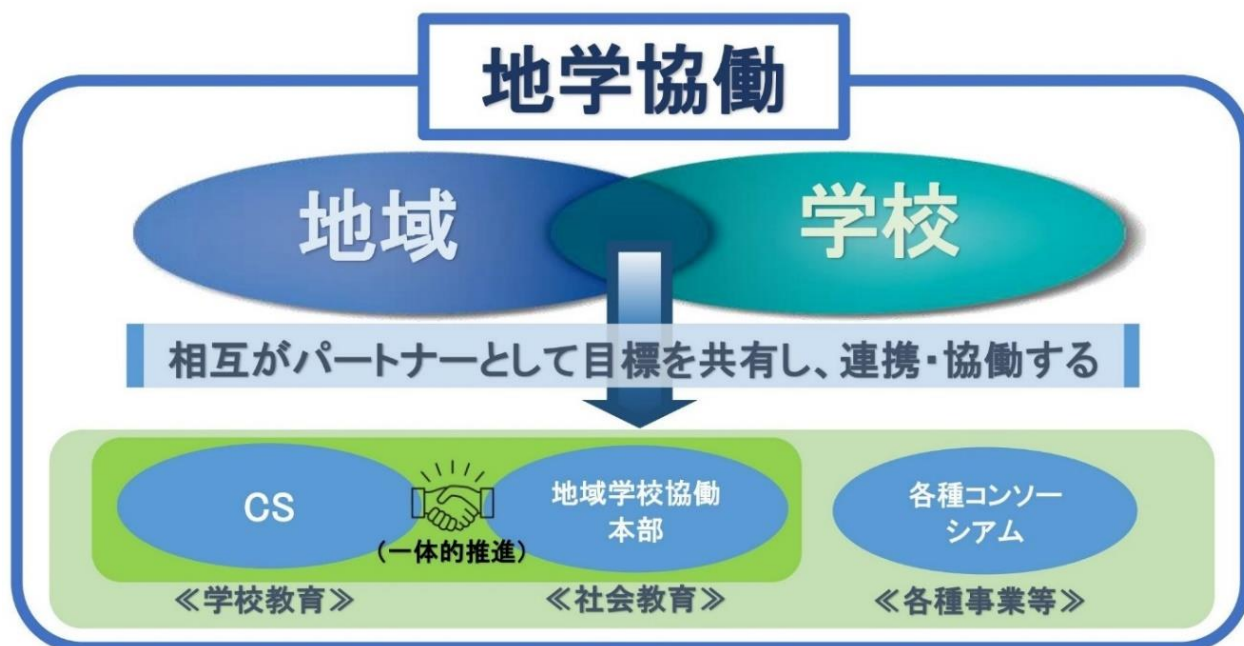
地域全体で子どもたちの学びと成長を支えるとともに、学校を核とした地域づくりを目指して地域と学校がパートナーとして連携・協働して行う様々な活動のことです。

もともと社会教育分野で続けられてきた活動が統合・発展してきたもので、平成29年に改正社会教育法で正式に位置付けられました。

法律に位置付けられた理由

- 地域の様々な課題や、学校を取り巻く問題の複雑化等に対して社会総がかりで対応することが求められ、地域と学校がパートナーとして連携・協働するための組織的・継続的な仕組みが必要とされたこと
- 学習指導要領が目指す「社会に開かれた教育課程」の実現のために、学校が地域と連携・協働を進めていくことが不可欠であること
- 地域の活性化のために、「より多くの地域住民が子ども達の成長を支える活動に参画する基盤」の整備が重要であること

こうした社会的な背景により、平成29年3月に社会教育法が改正され、地域学校協働活動の全国的な推進が図られることになりました。



学習指導要領が実現を目指す**社会に開かれた教育課程**（道教委ホームページから）

●社会のつながりの中で学ぶことで、子どもたちは自分の力で人生や社会をよりよくできるという実感を持つことができます。また、このことは変化の激しい社会において、子どもたちが困難を乗り越え、未来に向けて進む希望や力になり、そのため、これからの学校には、**社会と連携・協働した教育活動を充実させることがますます求められています。**

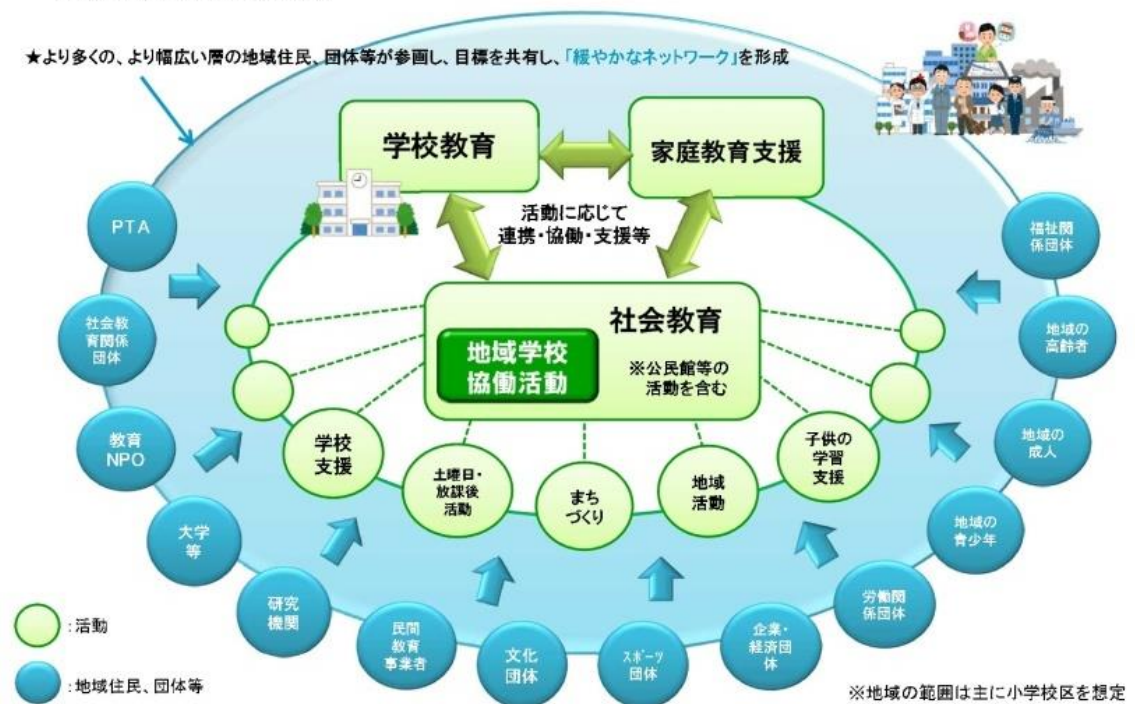
- ポイント① よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を、学校と社会とが共有する。
- ポイント② これからの社会を創る子どもたちに必要な資質・能力が何かを明らかにし、学校教育で育成する。
- ポイント③ 地域と連携・協働しながら 目指すべき学校教育を実現する。

ゆるやかなネットワークを作ること 地学協働本部

地域学校協働活動を推進する組織として**地域学校協働本部**があります。これは、より多くのより幅広い層の地域住民、団体が「緩やかなネットワーク」を形作る体制となっています。

地域全体で未来を担う子供たちの成長を支える仕組み（活動概念図） 資料3-3

- ◎ 次代を担う子供に対して、どのような資質を育むのかという目標を共有し、地域社会と学校が協働。
- ◎ 従来の地縁団体だけではない、新しいつながりによる地域の教育力の再生・充実は、地域課題解決等に向けた連携・協働につながり、持続可能な地域社会の源となる。



（文部科学省ホームページから）

コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）との違い

学校運営協議会は、学校運営への必要な支援等について協議する場であり、コミュニティ・スクールは地域の知恵と願いを学校運営に導入する仕組みと言えます。

これに対して、地域学校協働活動は、学校支援等を実際に行う活動となります。目指しているものも、学校づくりと地域づくりの違いがあります。

コミュニティ・スクール	地域とともにある	学校づくり
地域学校協働活動（本部）	学校を核とした	地域づくり

コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進

昨年6月に閣議決定された「教育振興基本計画」では、今後5年間の教育政策の目標と9つの基本施策の1つとして「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進」が掲げられました。学校運営協議会と地域学校協働活動（本部）を両輪として、一体的に活動をする学校こそが真のコミュニティ・スクールだというわけです。幕別町でも、この実現を目指して少しずつ取組が進んでいます。

幕別町の地学協働活動

何度もお知らせしている通り、町内の学園で地学協働本部があるのは**札内東学園**と**糠内学園**の2つですが、他の学園でも地域と学校が連携して行う教育活動を数多く進めています。すべての学園で作成されている「まるわかりサポーターの図」を見ると、実に多彩な学習が地域との協力のもと行われていることが分かります。これらは、各学校が長い期間にわたって各機関・団体と協力関係を作り上げてきた努力の結晶というべきものです。

ただ、学校と各協力団体はそれぞれ別の線につながっている状態ですから、今以上のものに発展させたり新たな取組を始めたりするときには、また多くの労力が必要になります。学校になるべく負担をかけずに、これらの学習を発展させようと作られたのが地学協働本部なのです。

地学協働本部には、本部長も会長もいません。いるのは各団体をつなぐ役割を果たす地域コーディネータや地域活動推進員だけです。緩やかなネットワークと言われるのはそのためで、「各機関・団体がそれぞれ得意なことをして協力する、それを連絡調整するコーディネータがいる」というのが協働本部の姿です。

今、幕別町では、このコーディネータを何とか配置して協働本部を作ろうとしています。先陣を切った**札内東学園**では、地域の方で「やっていいよ」と申し出てくださった方が地域プロデューサーとなり、それに協力する2名の運営協議会委員の方が地域コーディネータとなって動き出しました。**糠内学園**では運営協議会委員の方が自ら動いてコーディネータの役割を果たす形で協働本部を立ち上げました。また、**まくべつ学園**では、運営協議会委員の方が町内会役員の方々に働きかけて地域協働あいさつ運動を成功させています。

様々な形が考えられるので、皆さんの知恵を集めて、進めていこうとしているところです。

息の長い活動だからこそ、あせらず、ゆっくり、でも確実に」

CSも地学協働活動もすぐに活発になる活動ではありません。実際に活動に参加する人が増えていくことによって理解が進むからです。あせらず、じっくりと、でも確実に進めるために、皆さんの息の長いご協力をお願いします。

小中一貫教育・CS関係 7月の動き

- 4日(木) さつない学園授業参観交流（札南小会場）
～5日(金)
 - 9日(火) 糠内学園諸鈍小中とのオンライン交流
さつない学園生活のきまり部会（夏休みのきまり・小中生徒指導交流）
 - 10日(水) 糠内学園研究授業交流（糠内小）
 - 11日(木) 札内東学園合同研修会
町小中一貫教育・CS推進連絡会議
 - 12日(金) まくべつ学園学園会議①（義務教育学校）
さつない学園授業参観交流（途別小会場）
 - 16日(火) 糠内学園定例経営会議
 - 17日(水) まくべつ学園地学協働あいさつ運動2回目
 - 18日(木) さつない学園合同あいさつ運動
（札中校門前で児童生徒合同実施）
ちゅうるい学園生徒指導・特別支援交流会
 - 19日(金) 札内東学園中学校登校
糠内学園総合発表会（糠中）
さつない学園授業参観交流（札内中会場）
まくべつ学園児童会生徒会交流会議
まくべつ学園三役会議
 - 22日(月) ちゅうるい学園小中合同部会・合同研修会
まくべつ学園小中教職員交流ミニバレー大会
 - 24日(水) 糠内学園研究授業交流（明倫小）
 - 29日(月) まくべつ学園学園会議②（義務教育学校）
さつない学園検定・学習会部会（夏休み学習STEPサポート：札内中会場）～31日(水)
- ※ さつない学園特別支援部会（学校見学・学校説明会：小6支援在籍児童・担当教諭対象）7月～8月に実施
※ まくべつ学園性教育授業交流、合同校区巡視 7月中